

平成26年度 大阪府立住吉高等学校 第3回学校協議会記録

平成27年 3月10日(火) 午後6時00分
大阪府立住吉高等学校 会議室にて

委員紹介

大阪大学名誉教授・台湾大学客座教授	
放送大学客員教授	笠井 俊夫 様
前府議会議員(住吉高校OB)	若林 勝雄 様
住吉高校後援会会長	川下 昭彦 様
住吉高校PTA会長	波々伯部 益尚様
大阪市立阪南中学校長	柴田 俊次 様
(大阪大学ナノサイエンスデザイン 教育研究センター特任教授	奥山 雅則 様はご欠席)

本校出席者 校長、教頭、事務長、岡本、山中、藤井、乾、久世、斎藤、木村、

◎各種取組の報告

- (1) 平成26年度進路状況について(乾進路指導部長より)
- (2) 「骨太の英語力養成事業」における取組について(斎藤国際文化科長より)
- (3) 国際交流について(藤井指導教諭より)
- (4) SSH事業について(岡本首席より)
- (5) ユネスコスクール活動について(山中首席より)
- (6) 生活指導について(永山教諭より)
- (7) 学校教育自己診断の結果と分析(木村教諭より)

◎委員より意見、助言

- ・厳しいときに人は良く学ぶ。「楽しい」だけでいいのか。
- ・文系の国公立進学は健闘しているが、理系はどうか。SSHの取り組みの成果が表れているのか。
- ・遅刻指導について、入試結果を追うあまり学校生活をおろそかにして塾や予備校に行っているのではないか。学校を休んで家で勉強したり、寝坊したりしているのか。アルバイトの実態調査をして遅刻や学力との関連を調べてほしい。
- ・さらなる向上心を持たせるために子供に意識改革を促すなら、先生が本気になることが大事。学校の特色を出すのは大変だが、進学実績を上げることが大切。
- ・保護者の立場から言えば、親も遅刻指導に協力すべき。家庭内のしつけが大切。
- ・先生と生徒との関係で、ため口で接する生徒もいるようだが、けじめをつけてほしい。